

レッドライン

2008(平成20)年6月13日鑑賞(GAGA 試写室)

★★★



監督＝アンディ・チェン／出演＝ナディア・ビョーリン／ネイサン・フィリップス／エディ・グリフィン／アンガス・マクファーデン／ティム・マシスン（プレジディオ配給／2007年アメリカ映画／95分）

……カーレースを描いた映画は多いが、美女レーサーの登場がこの映画のミソ！ また、ホンモノの超高級車を実際に走らせ、クラッシュさせたのがこの映画の売り！ レースの実況中継だけではない、恋とサスペンス、そして人間の欲が絡まった映画をスカッと楽しもう。しかしくれぐれも、公道でのカーレースと運転中のケータイだけは真似しないように！

◆ カーアクション映画はいろいろあるが、類まれなドライビングテクニックを身につけた美しい女性ナターシャ（ナディア・ビョーリン）を主人公にしたところがこの映画のミソ。さらに、単なるカーレースもの映画ではなく、恋（？）とサスペンス（？）を絡めるため、レーサーだった父がレース中の事故で死亡して以来、彼女はレーサーの道に進むことを拒否し、今はバンドのボーカリストを目指しているというからカッコいい。

◆ 最初にそんなナターシャの腕に目をつけたのは、違法レースで莫大な金を賭けている黒人ラッパーのインフェイマス（エディ・グリフィン）。多くのセレブを前に、ラスベガスで歌うことを勧めたのは、実は彼女をレースに出場させるための巧妙な策略だったのだ。仕方なくそれに乗ったナターシャは、そこで圧倒的なテクニックを披露。そんなナターシャは、たちまち他の金持ちたちの目に止まり、否応なく巨額の賭博レースに巻き込まれていくことに。

◆ この映画のプレスシートには、スクリーン上に登場する新車推定価格1億円のフェラーリのエンツォフェラーリをはじめ、カーマニアなら垂涎の各種名車が紹介され

ている。これらの多くは、プロデューサーのダニエル・サデクがコレクションしているものを撮影用に提供したとのこと。また、それらを惜しげもなくクラッシュさせたため、撮影終了後の修理費用は1億5千万円にも達したというから驚き。ただ残念なのは、いくらそんなラインナップであっても、どれがどの車か素人の私にはサッパリわからないこと。また、時速200kmくらいなら、ドライビングテクニックが多少理解できて、時速300kmともなると、一体どんなテクニックで、どんなレース運びをしているのかサッパリわからない。また、さかんにギアを切り換えているが、それが一体どんな意味をもつのかさえわからないのが、この手の映画の難点。ちなみに、時速300kmで運転しながらケータイでおしゃべりというのは、ちょっとふざけすぎでは……？

◆ 映画終盤のハイライトは、インフェイマスを含む4人の富豪たちが2500万ドルずつ出し合い、計1億ドル（100億円）を賭けたカーレースの行方。レーサーの1人はナターシャだが、4人の中にはかつて父を死に追いやったレーサーの姿も。

ナターシャがこのレースに臨んだのは、母親を監禁されてしまったため。したがって、今秘かに想いを寄せ合う(?)カルロ(ネイサン・フィリップス)の協力によって母親さえ無事奪回できれば、ナターシャはレースの勝敗自体には関係なし。しかし、それでもレースに臨めば血が騒ぐのは、レーサーの宿命らしい。4人のうち2人は既にアウト。最後の勝負に向けて、ナターシャは今トップをひた走っていたが、そこでナターシャがとったある行動とは……？

そんなスリルを感じとりながら、美女のカーテクニックを楽しみ、少しでも参考にしたいものだ。もっとも、すべての決着がついた後、ラストで見せるナターシャとカルロの公道カーレースだけは絶対真似しないように！

2008(平成20)年6月14日記